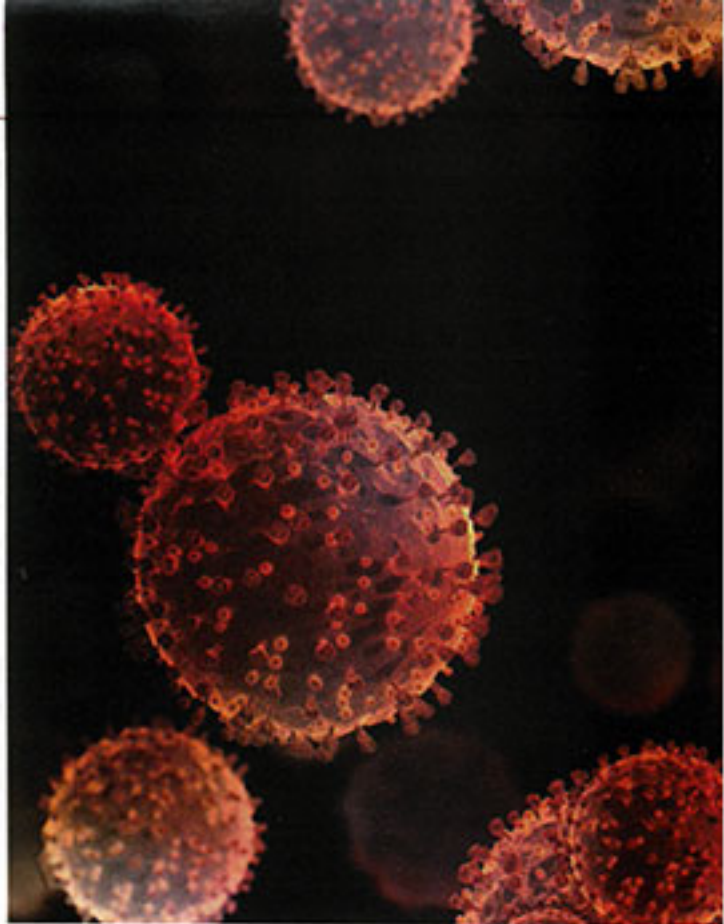


ぽれぽれ通信

人と会わない
勇氣

3・4月号
vol.57



コロナ対策により 一変した日常生活

世界中で新型コロナウイルスが、猛威を振るって早一年が過ぎようとしている。未だ、人類はこの新たな危機から脱していない。一日も早いワクチンの供給と治療薬(特効薬)の開発が切望される。緊急事態宣言が、

ここ神奈川県では、今年の1月に昨年の4月以来、二度目の発出を迎えた。今回は、当初、一か月間の予定で東京都、埼玉県、千葉県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県、栃木県と共に対象地域とされた。緊急事態宣言下で、全国の新規感染者数は1月中旬以降減少傾向となり、入院者数減少

駅頭や街角から 顔が見えなくなった 山本

がみられたものの、重症者数、死者数は引き続き高い水準にあった。更に新規感染者数を減少させ、入院者数、重症者数を減少させる必要があり、栃木県を除き更に一か月の延長を余儀なくされた。

政府からは、不要不急の外出は控えて欲しい、特に夜8時以降の外出自粛の要請、また飲食店でも夜の7時以降の酒類の販売停止と営業は夜8時までの時間短縮の要請がなされ、生活は一変した。山本が、例年参加していた忘年会や新年会は全て中止された。また不特定多数が集まるようなイベントは、人と人との接触機会が多いこと、飲食につながる場合が多いことなどから、特別な対応が必要とされ、開催者には、規模などの要件に沿った開催が要請され、大規模

なイベントはもとより地域のお祭りや各種のイベントも中止となり、街から人々が笑顔で話し合う賑わいは無くなった。

他方、宅配デリバリーのようなサービスは、利用者が増え大忙しだと言う。某大手ビザチエーン店の役員が「毎日がクリスマスのように忙しいです」とテレビのインタビューで答えていたのが、その実態を如実に表している。しかし、そのような宅配の現場でもコロナによって以前とは違う現象が起きている。例えば、宅配ピザであれば、今までは、玄関の扉を開けて品物を直接手渡しで受け取っていた人たちが大半であろう。現在は、支払いがネットで事前に済ませ、玄関の扉の前に品物を置いてもらい、「配達員が立ち去った後に家の人が取りに行く。人と

人の接触の機会を減らすための感染予防策の一つである。玄関先の地面に直接品物を置くことを避けるために簡易の台になる段ボールボックスを用意しているお店が増えてきたことから、そのような対応を希望する利用者が多いことが伺える。共働きで普段からネットスーパーを利用していただ方々が、コロナにより利用が増え、お店側が対応しきれずに注文が出来なくなったという話もよく耳にする。加えて、ネットスーパーの受け取りもやはり、以前のような対面ではなく、玄関先に置いてもらうケースが増えてきたそうだ。

大変残念なことではあるが、コロナ感染予防の対策の一つとして人と人の接触を減らすことが求められている。これは、自分

自身を守ることでもあり、他者にうつさないという周りの人を守ることでもある。

変えるべき政治活動

政治家の判断が問われる

人々の日常生活が、コロナによって変更を余儀なくされている中、政治家の日々の活動にも変化が見え始めている。加えて、変化させるかどうか政治家自身が判断をしなければならぬ場面が増えてきている。極端に変わったのは、土曜・日曜の週末の活動であろう。いつもであれば、週末は地元張り付いて朝から地域のイベントや式典に顔を出して日中は街の人たちと語らい、夕刻からは懇親会などに出席し、時にはお酌をして回り参加者と打ち解け、地域の人たちの現場の声を受け止め

る。だが、前述の通り、イベントや会合などは、全て中止になっている。従って、週末にあつちにくつちにと分刻みで会場を網渡りのように走り回ることは一切なくなった。

また、週末に限ったことではないが、政治家自身が報告会などを開催し、議会での活動や日頃の政治活動などの内容を報告したり、質疑応答をしたりすることで、そこでも色々な声を汲み取る。或いは、挨拶回りと言われる自らの足を使ってご自宅やお店、会社などを訪問し、自身の活動報告や後援会への入会のお願いやポスター掲示協力のお願ひに上がるなど日頃の政治活動は多岐に渡る。しかし、それらは、すべて人と人との接触が大前提である。挨拶回りも国会（東京）に出動している者とし

て県境をまたぎ、その上で、地元のご家庭や職場に回り、話をしに行くことが適切なのか、考えた結果、山本は感染拡大予防のために行っていない。

最近、山本は周りの方々から「地元で山本さんの顔が見えない」と言われるそう。これは、政治家として致命的と言えよう。確かに、今まで毎日のように行ってきた本誌を配布する早朝の駅頭活動も緊急事態宣言下では実施していない。加えて、前述のように各地でのイベントも中止になり顔を合わせる機会が無くなった。例えば、新年会などの各種のイベントが中止になる中、どんと焼きを実施している地域もあった。各家庭の正月飾りや子どもたちの書き初め、お守りやだるまなどを焼くお正月の恒例行事の一つであ

る。山本も毎年、各地域のどんと焼きに顔を出して、お手伝いなどもしていたが、今年は一か所も回らなかった。本当に燃やしてもらいたいものがあれば、別であるが、地域の人たちと触れ合いたいだけであれば、不要不急の外出自粛要請を政治側が出している以上、控えるべきだと判断したからだ。とは言え、山本も人の子である。他の政治家がどのような活動をしているのかは気になるものだ。ある日「どんと焼きには行きましたか？」と他の政治家に聞いたところ「行ったわよ。あんまり人はいなかったけど、でも焼いている役員がいるでしょ」との答えだったそう。

実際、駅頭活動に関しては「〇〇さんや××党は駅頭活動をやっているのに山本さんはやら



▲普段であれば実施していたはずの駅頭活動

ないの？」と言われるそう。しかし、感染予防のために時間差出勤、テレワークの推奨、出勤者数の削減、開催要件を緩和したスポーツ観戦では声を出した応援は控えて欲しいと政治側がお願いをしている。そのような状況で、早朝から駅頭に立ち、自身の活動報告や支援の依頼を大声を出して実施し、前述のように宅配サービスでも直接的な受け渡しを控えている方々

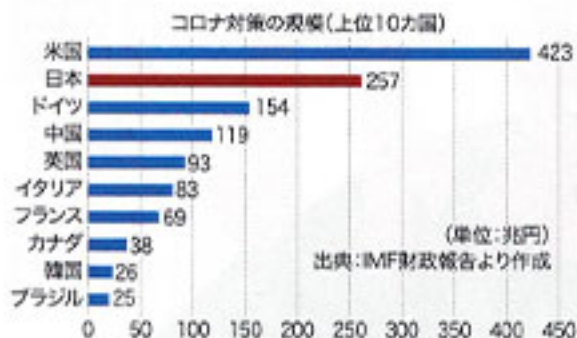
が多い中、自身の活動レポート類を直接配布する活動が適切といえるだろうか。賢明な読者であれば、直ぐに理解されるだろう。従って、山本は緊急事態宣言下での駅頭活動を一切実施していない。だからいつも駅頭活動の実施日や駅名、配布枚数などを報告している本誌でも残念ながら今号では報告できる内容が無いのだ。直接配布することができないが、本誌をできるだけ多くの方々に手に取ってもらおうと積極的にポストイングを行った。今まさに本誌をお読みになっている貴方もご自宅のポストから本誌を入手されたことであろう。

前述の通り、政治家として、日頃の活動を行わないのは致命的だ、本来、衆議院の解散を年内に控え、できるだけ多くの人と

会って話をして、一人でも多く支援の輪を広げたいのが政治家であろう。しかし、今の状況下において山本は「人と会わない勇気だ」と言い切っている。つまり、感染しない、感染させないために政治家として決定的に必要なことであってもやらない選択を取るということが勇気だということのようである。コロナ禍において挨拶回りや駅頭活動などの活動を行うかどうか、政治家自身の判断とセンスが問われている。

他国に比して多額 多岐に渡る支援策

コロナ感染拡大防止のために地元での山本の政治活動は、極めて抑制的になってはいるが、国会での活動は、政府与党の一員として積極的にコロナ対策を



行っている。国が実施したコロナへの支援策として一番記憶に残っているのは個人への10万円の特定期額給付金だろう。しかし、国が実施している支援策はそれに止まらず、大別して、①個人、②個人事業主・フリーランス、③中小企業、④大企業の4つの分野で、もらえる、借りられる、減額、免除、猶予など様々な支援策を打ち出している。それらの総額は約257兆

円になり、米国の約43兆2兆円に次ぐ世界第2位の対策規模である(表参照)。例えば、

個人への支援策として、子育て世帯特別給付金、住宅確保給付金、雇用調整による休業補償、小学校休業等対応助成金、高等教育の修学支援新制度など、個人事業主・フリーランスを対象としては、持続化給付金(最大100万円)、小規模事業者持続化補助金(上限100万円)、ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金(上限1000万円)、IT導入補助金(上限450万円)など、ほんの一例ではあるが様々な支援策があり、もちろん、中小企業や大企業向けにも各種支援策を用意した。

どのような支援が受けられるのか、山本ともひろ事務所に連絡し確認をするのも一つの手である。また、個人の環境や職種、立場によって受けられる支援策

は千差万別であるから先ずは、内閣官房のHP(ホームページ)の「新型コロナウイルス感染症に伴う各種支援のご案内」や自民党のHPのコロナ支援特設サイト「新型コロナウイルスにとまなうあなたが使える緊急支援」にアクセスして、ご自身がどの支援策を受けられるのか、調べてみることをお奨めしたい。自分自身に当てはまる支援策があれば申請を行い、万が一うまくいかない場合や望んでいないような支援策が見当たらない場合は、山本ともひろ事務所に連絡し、相談するのが良策である。

「人と会わない勇氣」、コロナ感染拡大抑止のために、本誌読者の皆様も出来る範囲で実践していただきたい。それが、自分を守り、周りの人を守ることに繋がると信じて。



ぺんぺん特別秘書官の603運動紹介!

第13回は野七里筋トレサークルの紹介だ!

野七里筋トレサークルは栄区の野七里地域で活動をしているぞ。器具を使わずに怪我のリスクの低い筋トレをしているんだ。

ハードな運動は一切なし!無理なくできる手足の運動、体幹の運動がメインになるぞ。またこの筋トレサークルは身体を動かすだけではなく口を動かすトレーニングで認知症予防や椅子を使ったバランス感覚のトレーニングで転倒防止運動など様々なトレーニングを行っているんだ。

1つ1つのメニューのこなす回数は少ないので飽きることなく運動できるぞ!



会の歴史は2010年の10月から続いておりなんと今年で11年目を迎えたんだ。

活動日は毎月第1・3水曜日の15:00~16:00。会場は野七里ケアプラザだ。必要な道具もないので手ぶらで参加することが可能、入会資格も会費もないぞ!

会場も広く、窓を開けての換気、距離を保つことでのソーシャルディスタンスも完璧だ!室内で過ごすことが増えてきている、運動不足が気になっているみんな!

ぜひ連絡をしてみてください!

(連絡先:上地さん090-2258-0949)

603運動とは? 「60代で3つの居場所を持つ」をキーワードに、山本が仲間と始めた運動です。

アドレスは「ほれほれ」

twitter、Facebookも本人がやっています
皆様からのご質問やご意見、お待ちしております。



山本ともひろプロフィール

経歴

- 関西大学 商学部 卒業
- 京都大学 大学院 修士課程(法学)修了
- (財)松下政経塾 卒塾 (21期)
- 米国ジョージタウン大学 客員研究員、その後、会社員を経て
- 平成17年 衆院選 初当選
- 平成26年 文部科学大臣政務官・復興大臣政務官 就任
- 平成27年 オリンピック・パラリンピック大臣政務官 就任
- 平成29年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 平成30年 自民党 国防部長 就任
- 令和元年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任

自由民主党 衆議院議員(4期 12年)

神奈川4区(栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町)
昭和50年(1975年)生まれ
45歳 鎌倉在住



分かりやすいと大人気!

国会見学案内実施中!

国会を山本ともひろと一緒に見学してみませんか?

「政治が身近に感じられた」「分かりやすく、楽しかった!」と大人気の見学ツアーは無料で行っています。詳細は下記の事務所まで、お気軽にお電話ください。



ぽれぽれ通信って何?



「ぽれぽれ」は、ケニアの公用語のスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意。私は、ケニア・タンザニア米国大使館同時爆破テロの現場(ケニア)に居合わせたのがきっかけで政治家を志しました。

一度に全てを変えることは無理でも、諦めず、ゆっくりでも少しずつでも政治を変えていきたい。そうしなければこの国は良くならない…。そしてその活動を皆様にお伝えしていきたいという想いを込めて、この冊子を作っています。



山本ともひろ事務所リスト

本部事務所

神奈川県鎌倉市大船1-6-6 大久保ビル3F
TEL:0467-39-6933 FAX:0467-39-6943

国会事務所

東京都千代田区永田町2-1-2 第2議員会館 1110号室
TEL:03-3508-7193 FAX:03-3508-3623

令和3年(2021年)3月1日発行 第57号

※本誌は、隔月(1、3、5、7、9、11月)発行の機関誌です。バックナンバーについては上記事務所までご連絡ください。またHPにも掲載しておりますのでご覧ください。